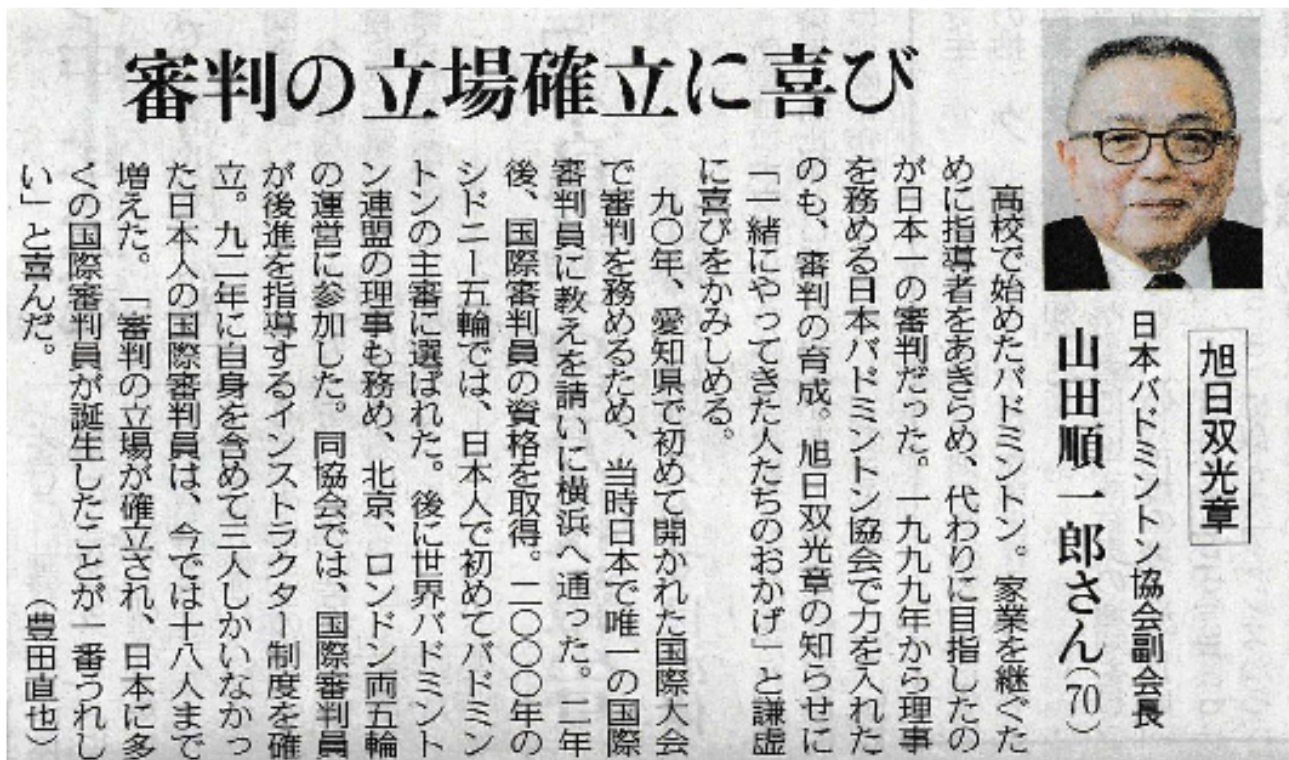


山田県協会理事長 旭日双光章授章

山田理事長が4月29日春の叙勲で旭日双光章を授章されました。

長年にわたり弊協会や社会人クラブ連盟の運営にご尽力される中、公益財団法人日本バドミントン協会の理事、さらには国際審判員、世界バドミントン連盟（BWF）の理事等も歴任され、広くバドミントン界をけん引されるお一人として今もご活躍されています。会員の皆様と共に喜びとお祝いを申し上げます。



審判の立場確立に喜び

山田順一郎さん(70)
日本バドミントン協会副会長

旭日双光章

高校で始めたバドミントン。家業を継ぐために指導者をあきらめ、代わりに目指したのが日本一の審判だった。一九九九年から理事を務める日本バドミントン協会で力を入れたのも、審判の育成。旭日双光章の知らせに「一緒にやってきた人たちのおかげ」と謙虚に喜びをかみしめる。

九〇年、愛知県で初めて開かれた国際大会で審判を務めるため、当時日本で唯一の国際審判員に教えを請いに横浜へ通った。二年後、国際審判員の資格を取得。二〇〇〇年のシドニー五輪では、日本人で初めてバドミントンの主審に選ばれた。後に世界バドミントン連盟の理事も務め、北京、ロンドン両五輪の運営に参加した。同協会では、国際審判員が後進を指導するインストラクター制度を確立。九二年に自身を含めて三人しかいなかった日本人の国際審判員は、今では十八人まで増えた。「審判の立場が確立され、日本に多くの国際審判員が誕生したことが一番うれしい」と喜んだ。

(豊田直也)